

鹿児島市の三越鹿児島店で

楽屋での準備では、舞妓さ

のではないかと確信した。

開催された京都西陣織展で、

ん用の白塗りと紅のメイク、

優雅な十二単の仕上げは豪

モデルとして舞台上で十二単

特別のかつら、下着にあたる

華な檜扇。でも扇を開いて顔

を着る機会があった。平安貴

着物など身につけた。高貴な

を隠したら、額しか見えない。

族の女性が着ていたという十

方なので歯を出して笑わない

昔から富士額が美人といわれ

二単。最近では、女優の藤原

よう助言をいただいた。

ていた理由も実感できた。美

紀香さんが婚礼のさいに着用

舞台では、前と後ろと二人

人かどうかを判断する材料が

して話題になった。着物好き

がかりでの着付け。華やかな

額しかなかったのだから。

の私はうれしくて、前夜は興

色の着物を一枚ずつ羽織るた

最も印象的だったのは、十

## 十二単の意外性

奮して眠れないほどであった。

びに会場から歓声が上がった。

はないか。重装備しているよ

十二単とは、正式には

快感。徐々に気分は高貴な平

うに見える十二単だが、脱ぐ

「五衣、唐衣、裳」のこと

安貴族になってゆく。

ときは一瞬にしてセミの抜け

をいうそりで、十二枚の着物

今回身につけたものの重さ

殻。着付けには時間をかける

を羽織るわけではない。じつ

は二十kg。でも事前に筋トレ

のだが、お殿様の寵愛を受

さいには「単の上には、五衣・

で鍛えていたので全く問題な

けるさいに待たせないために、

打衣・表着・唐衣までで八枚、

し。ただ、衣紋を抜かないた

脱ぐのは一瞬。こんな十二単

裳を数に入れても九枚」であ

め、首周りが苦しかった。リ

の意外性を感じつつ、当時の

る(仙石宗久著「十二単のは

ンパの流れが悪くなるから、

興味深い男女関係に思いをは

なし 現代の皇室の装い)。

平安貴族はしもぶくれだった

せた。